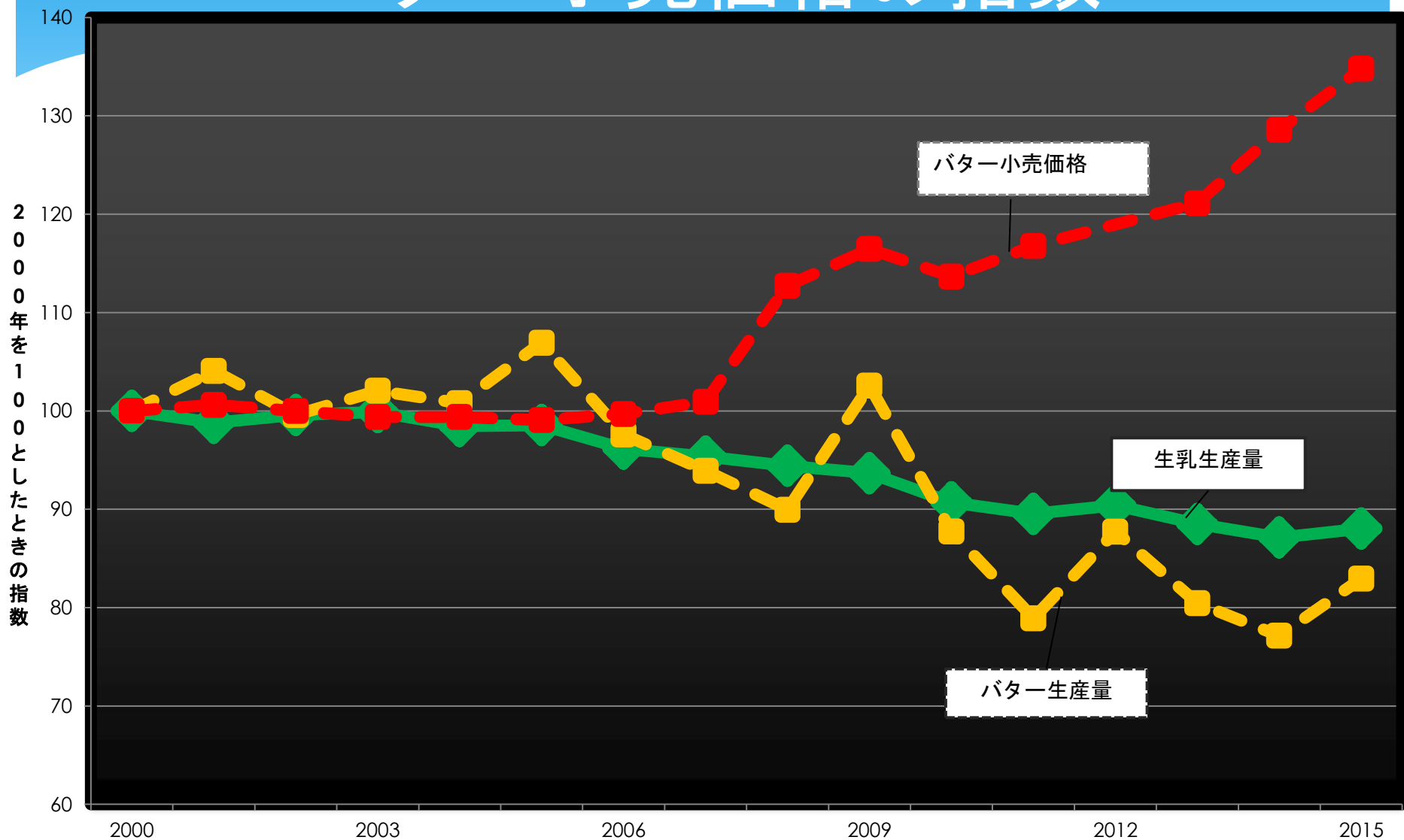


# バターが買えない 不都合な真実

キャノングローバル戦略研究所  
山下 一仁

# 牛乳生産量、バター生産量、 バター小売価格の指数

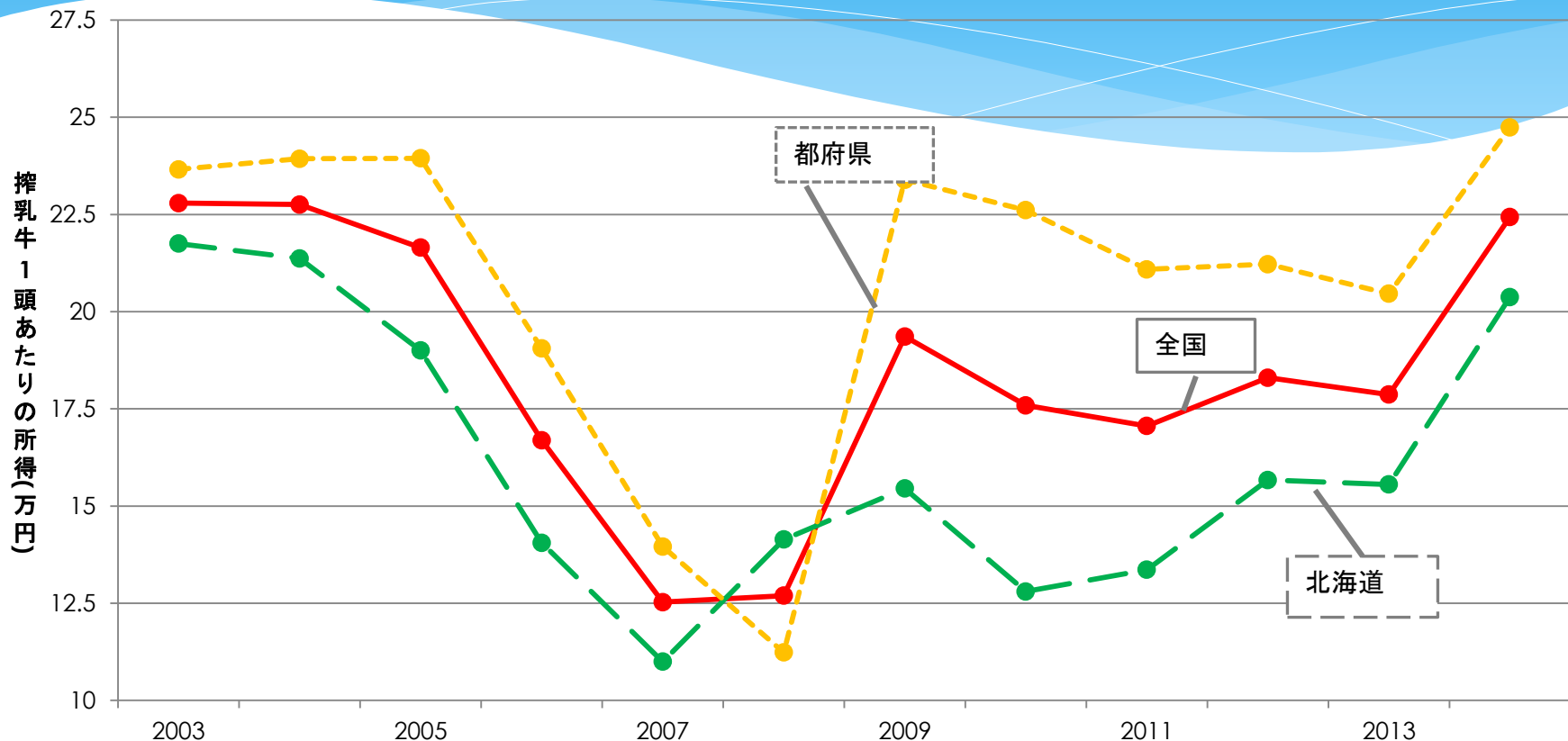


# バター不足についての説明は本当？

- \* 2014年からバターが不足するのは、乳価が低くて酪農家の経営が悪いので、離農するから？
- \* 乳価は低い？
- \* 酪農家の経営は赤字？
- \* 離農が進むので牛の頭数が減少する？
- \* したがって生乳生産が減少する？

# 搾乳牛1頭あたりの所得の推移

## 赤字になると生乳やバターが不足する？



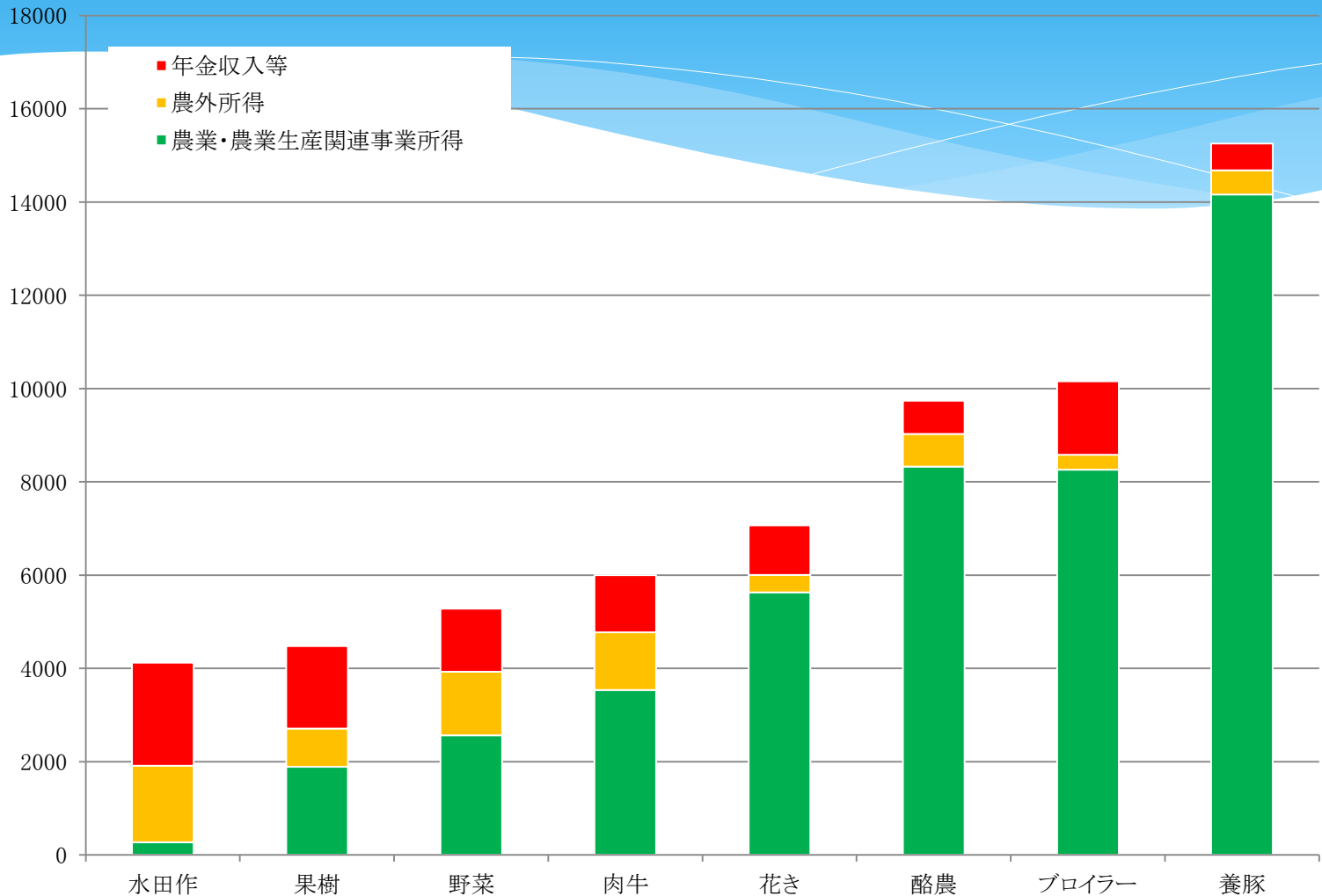
注1:2003年から2005年は年次のデータ、2006年から2013年は年度のデータである

注2：2007年度以降の数値は、税制改正における減価償却の見直しを踏まえて算出

注3：所得には配合飼料価格安定制度の補てん金を含まない

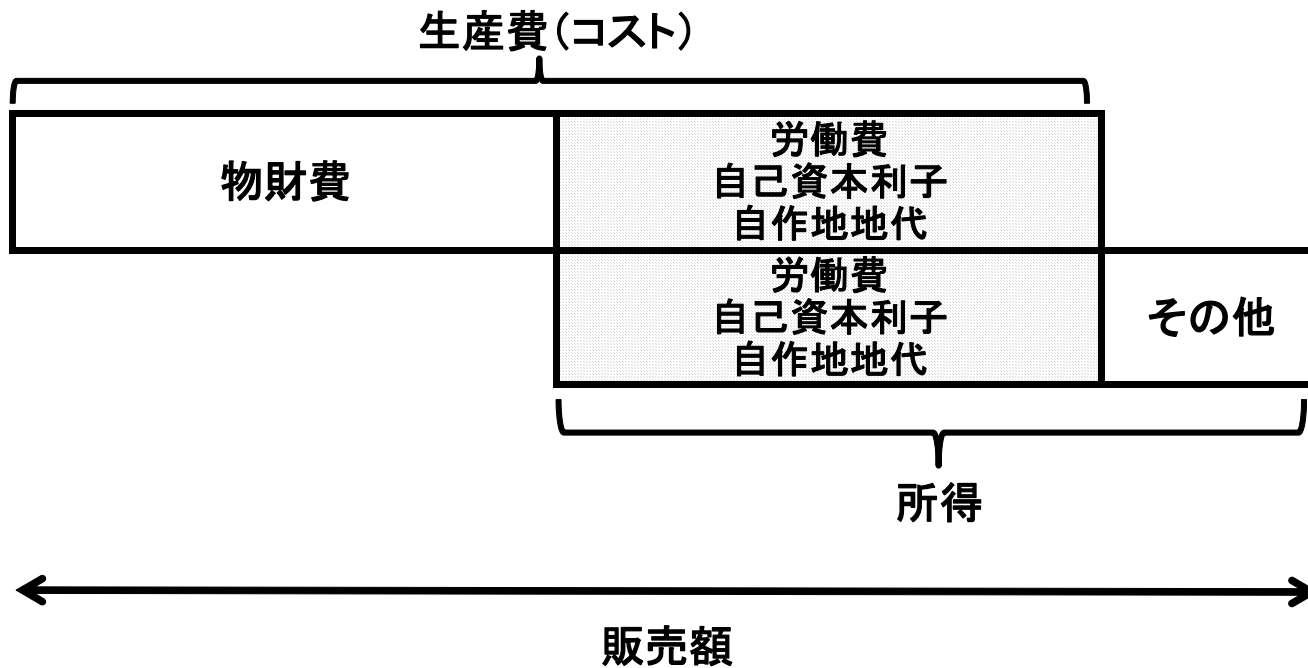
# 酪農家は貧しい？

(千円)

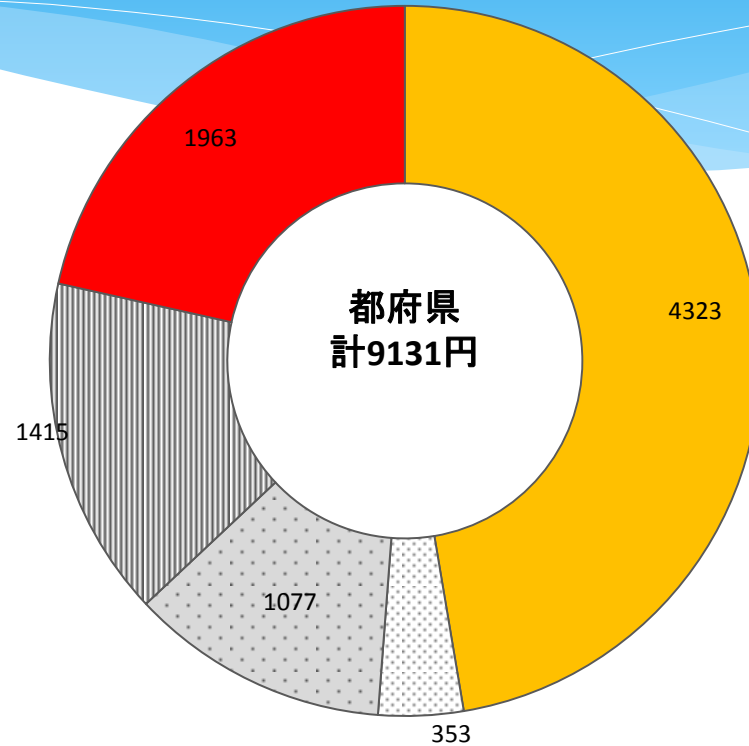
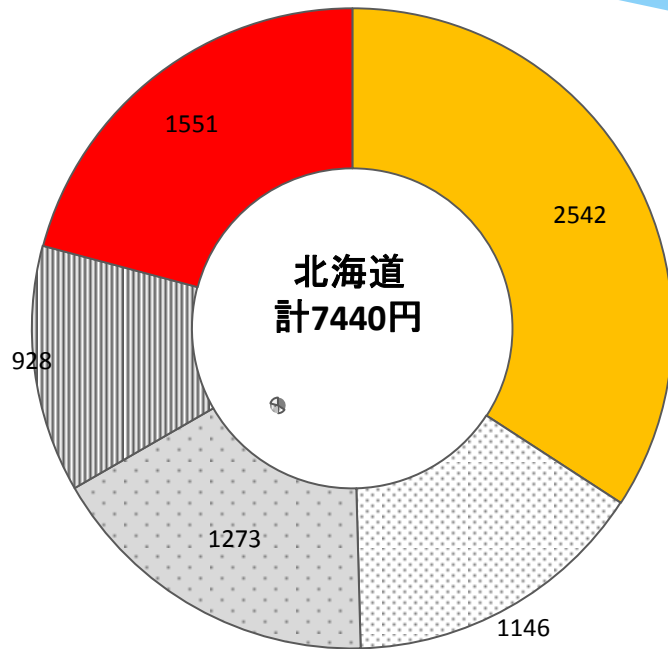


# 生産費と所得の統計のマジック

赤字でも所得はプラス  
専門家を信じてはいけない

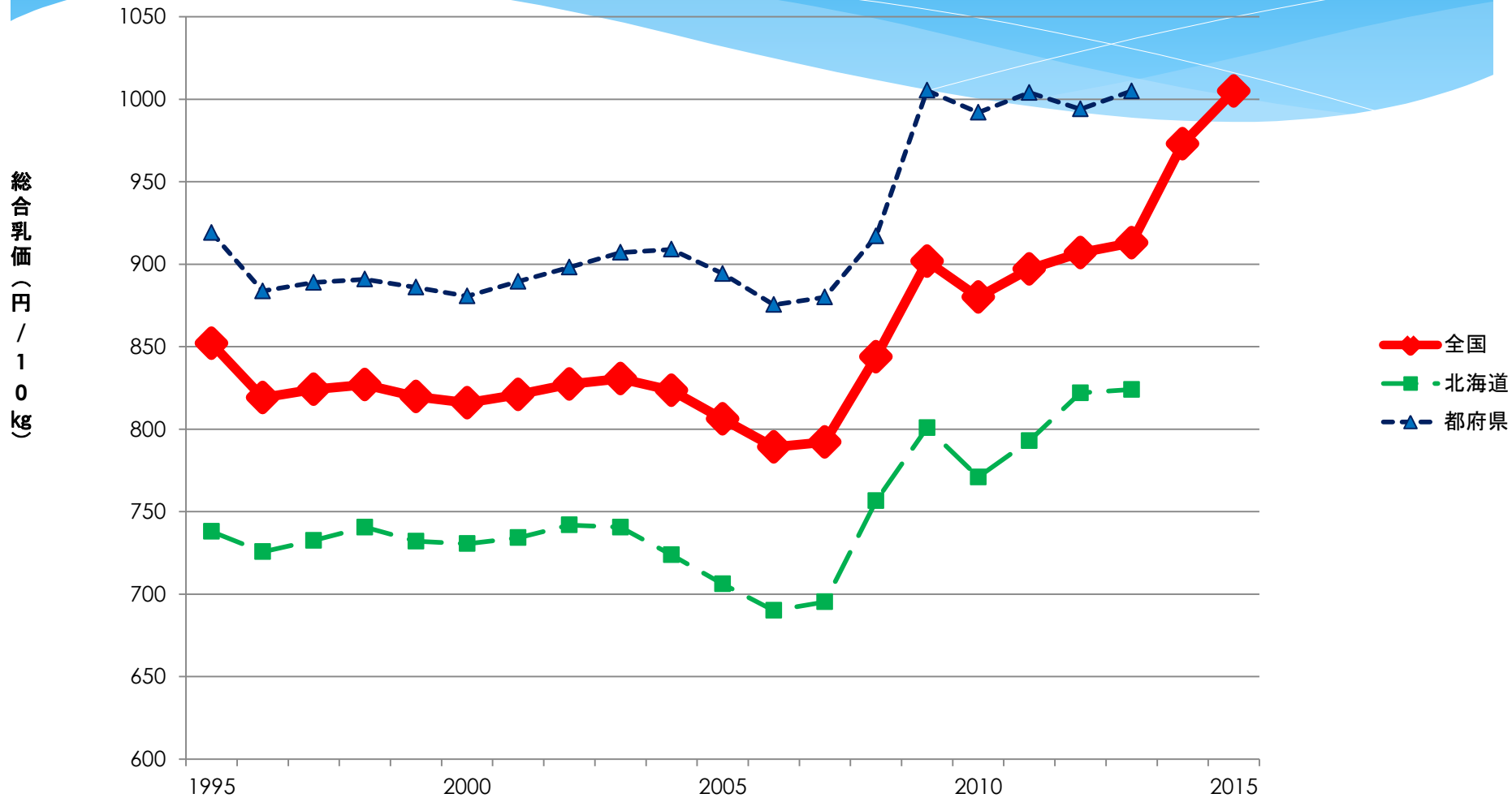


# 生乳100kg当たり全算入生産費



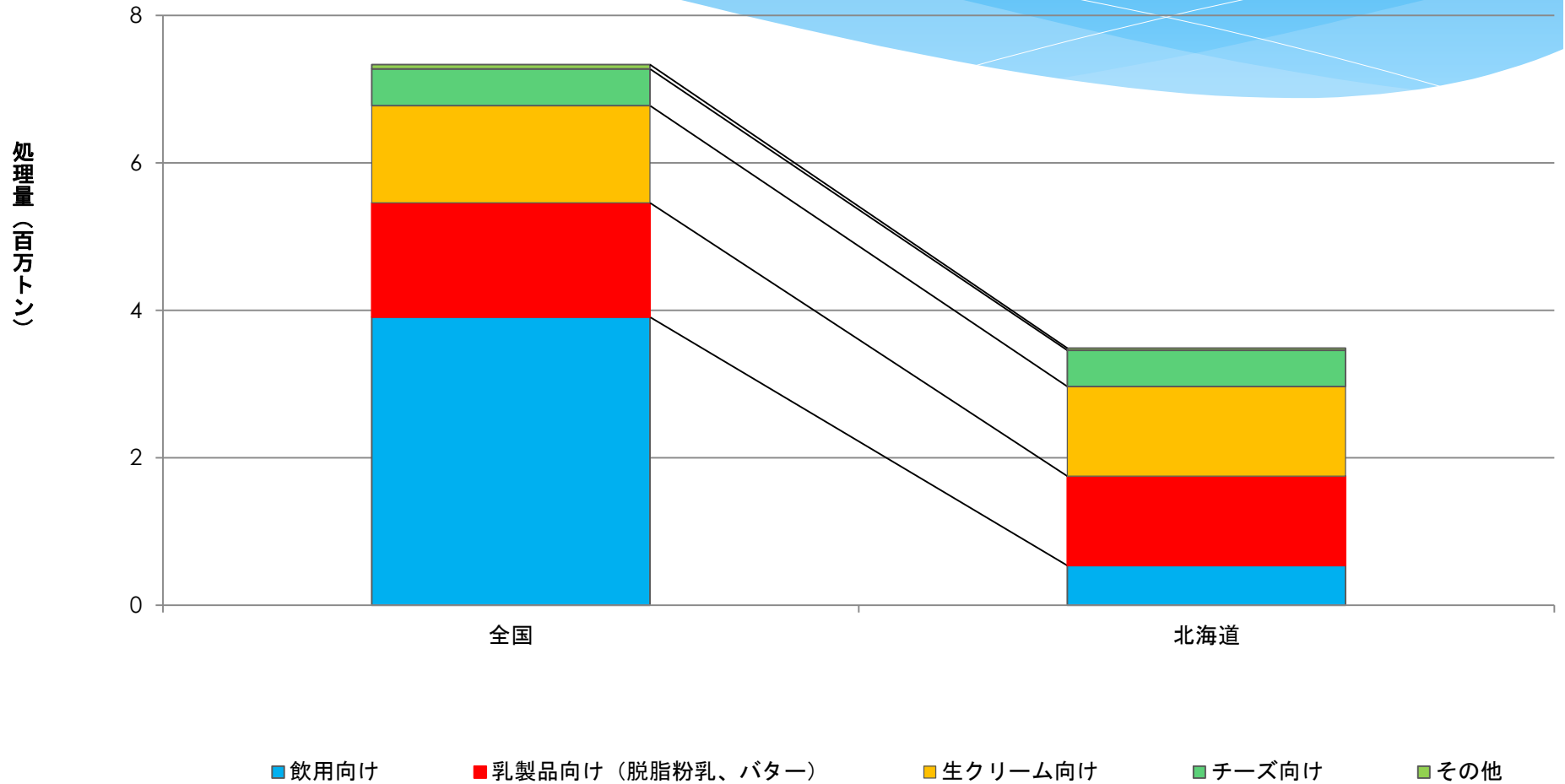
■ 流通飼料費 □ 牧草・放牧・採草費 ■ 乳牛償却費 ▨ その他 □ 労働費

# 総合（プール）乳価の推移



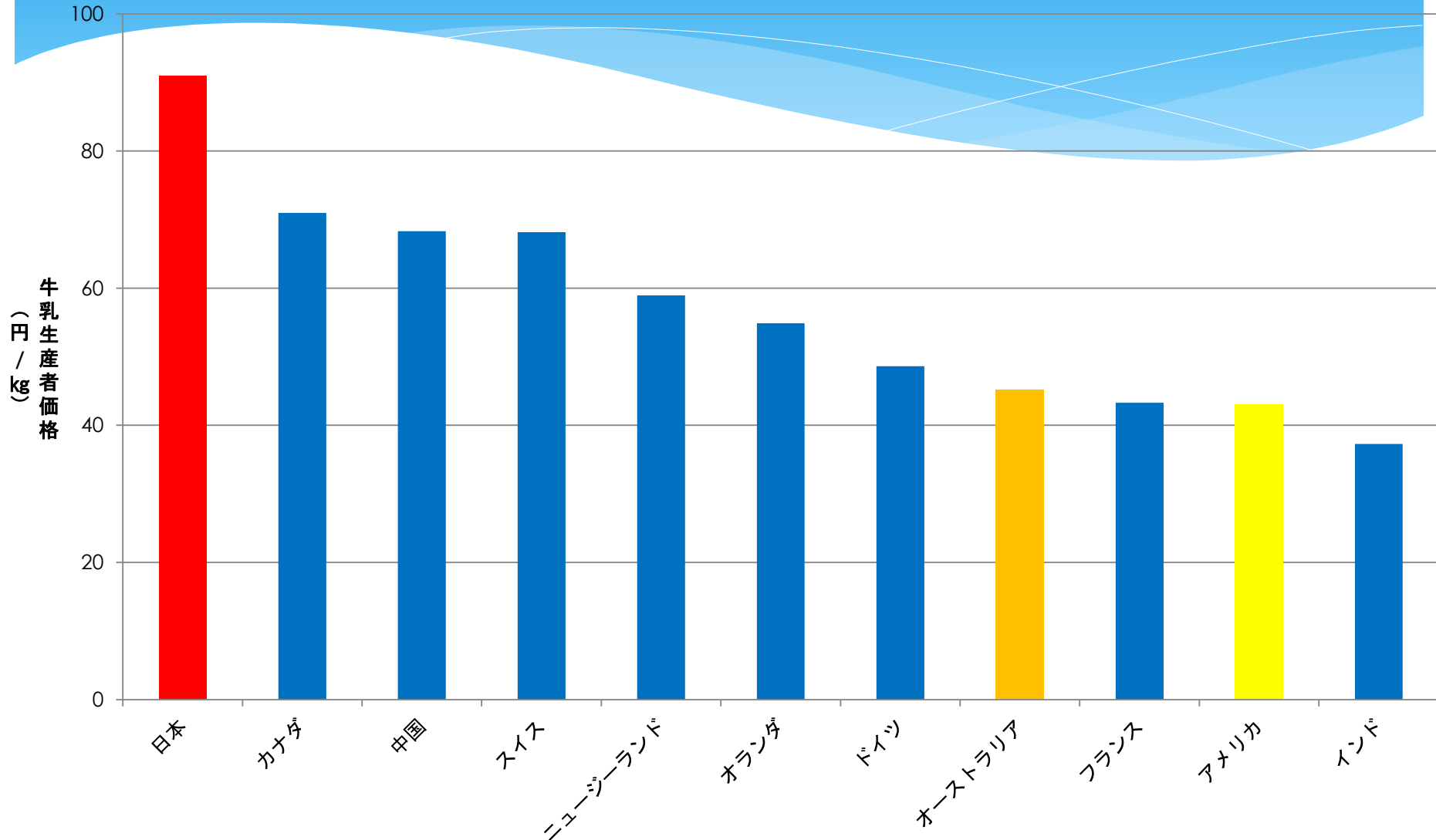


# 生乳の用途別処理量



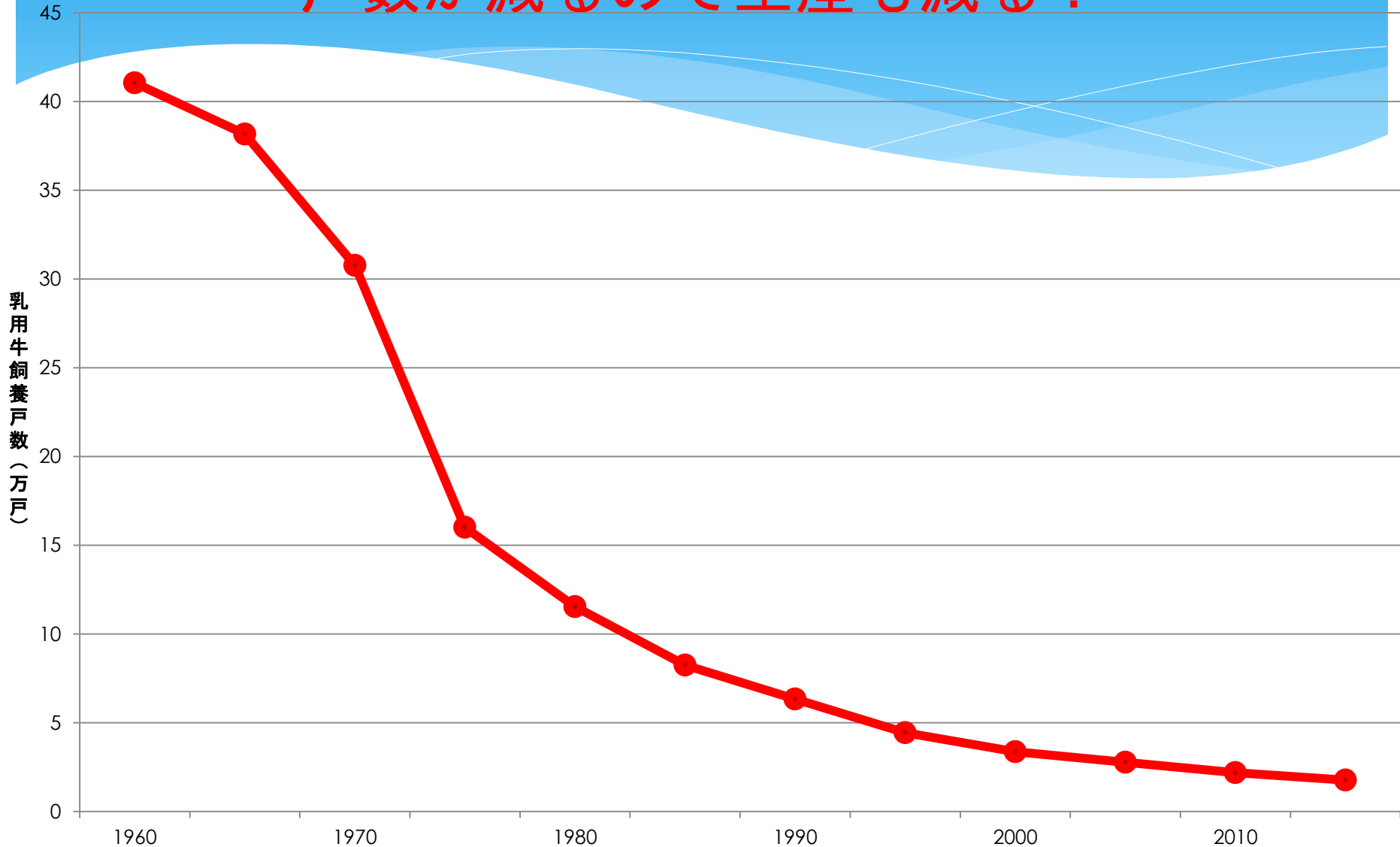
# 生乳生産者価格の国際比較

日本の乳価も酪農保護も低い？

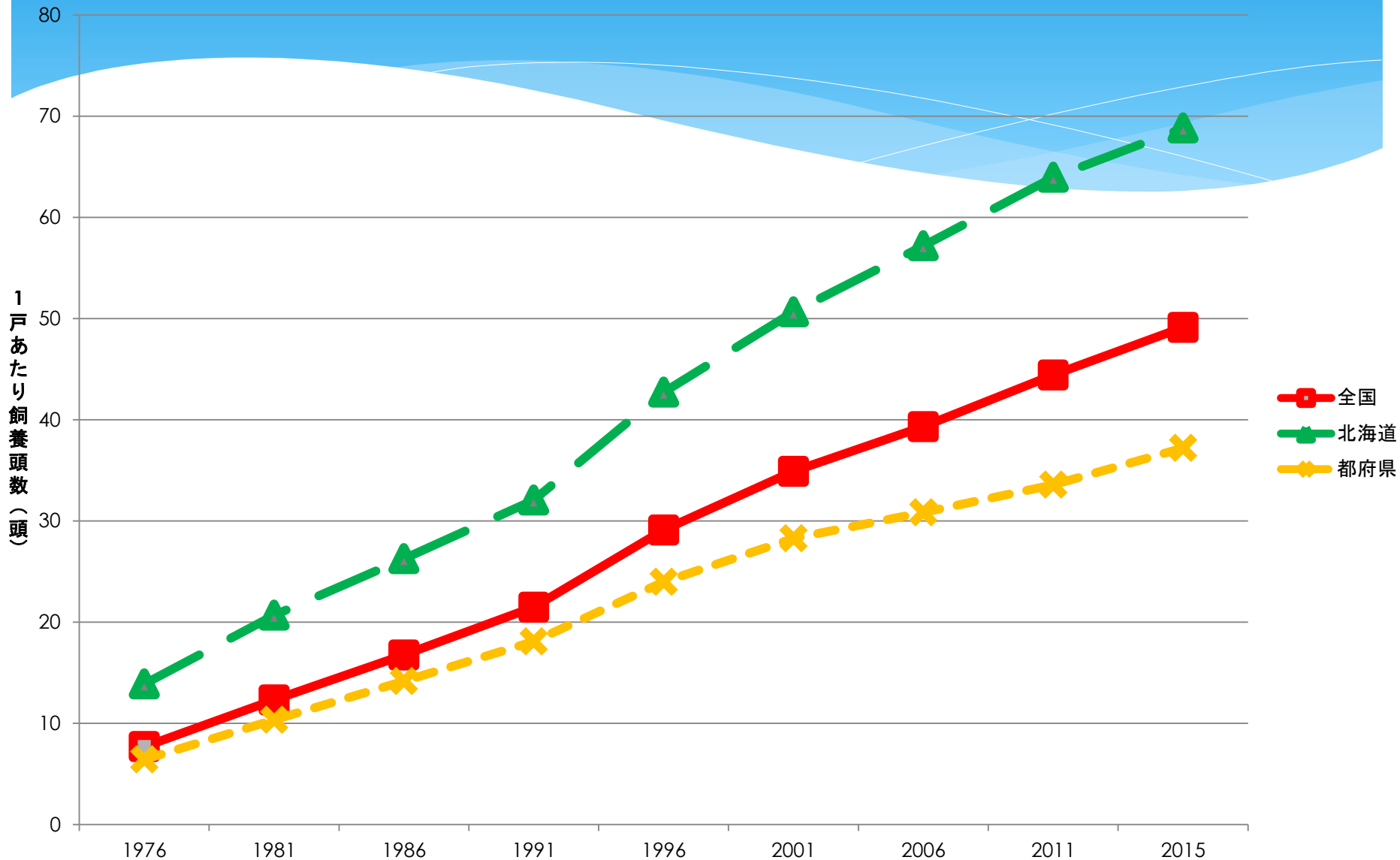


# 酪農家戸数の推移

戸数が減るので生産も減る？

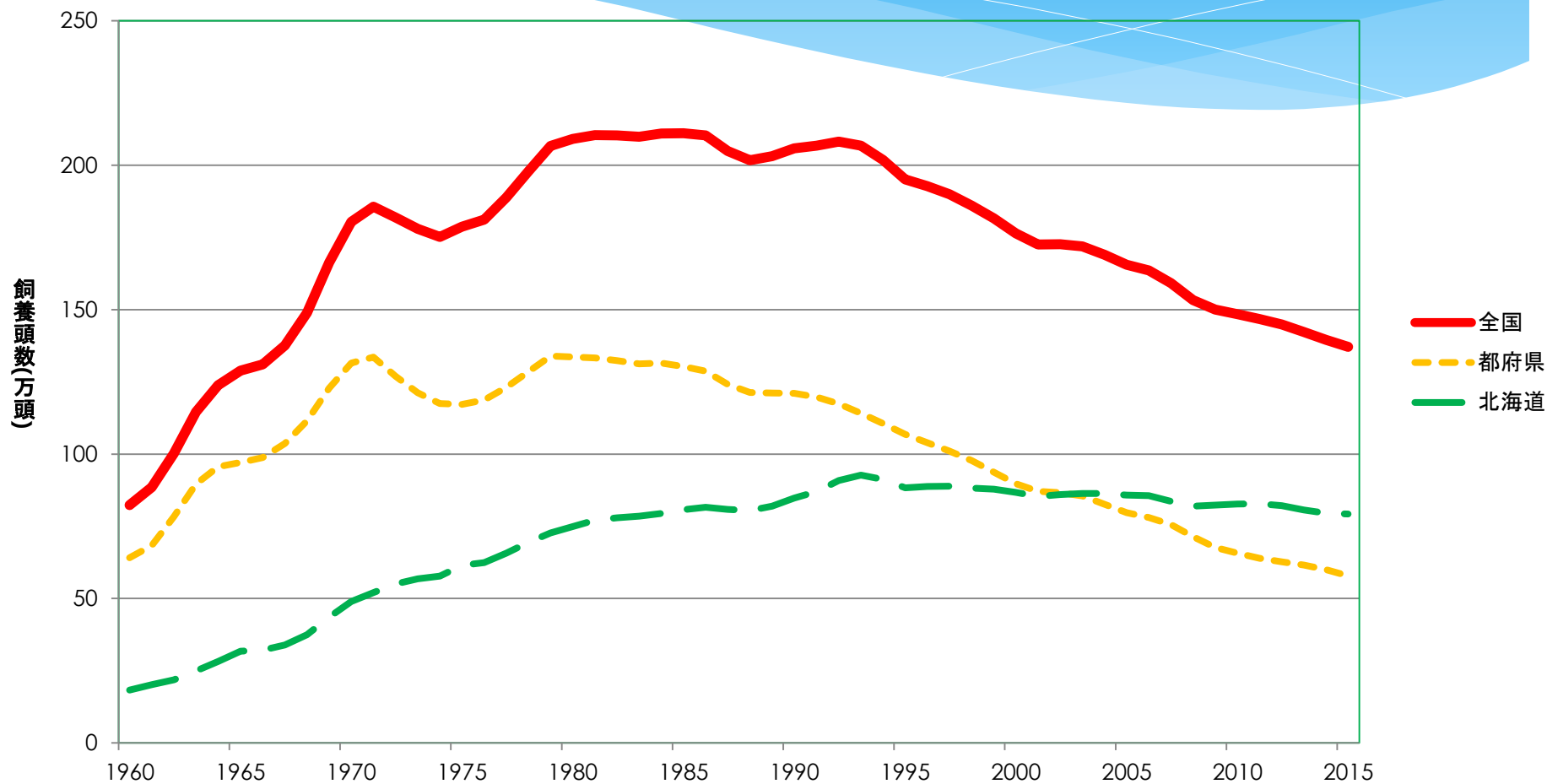


# 1戸あたり経産牛飼養頭数の推移



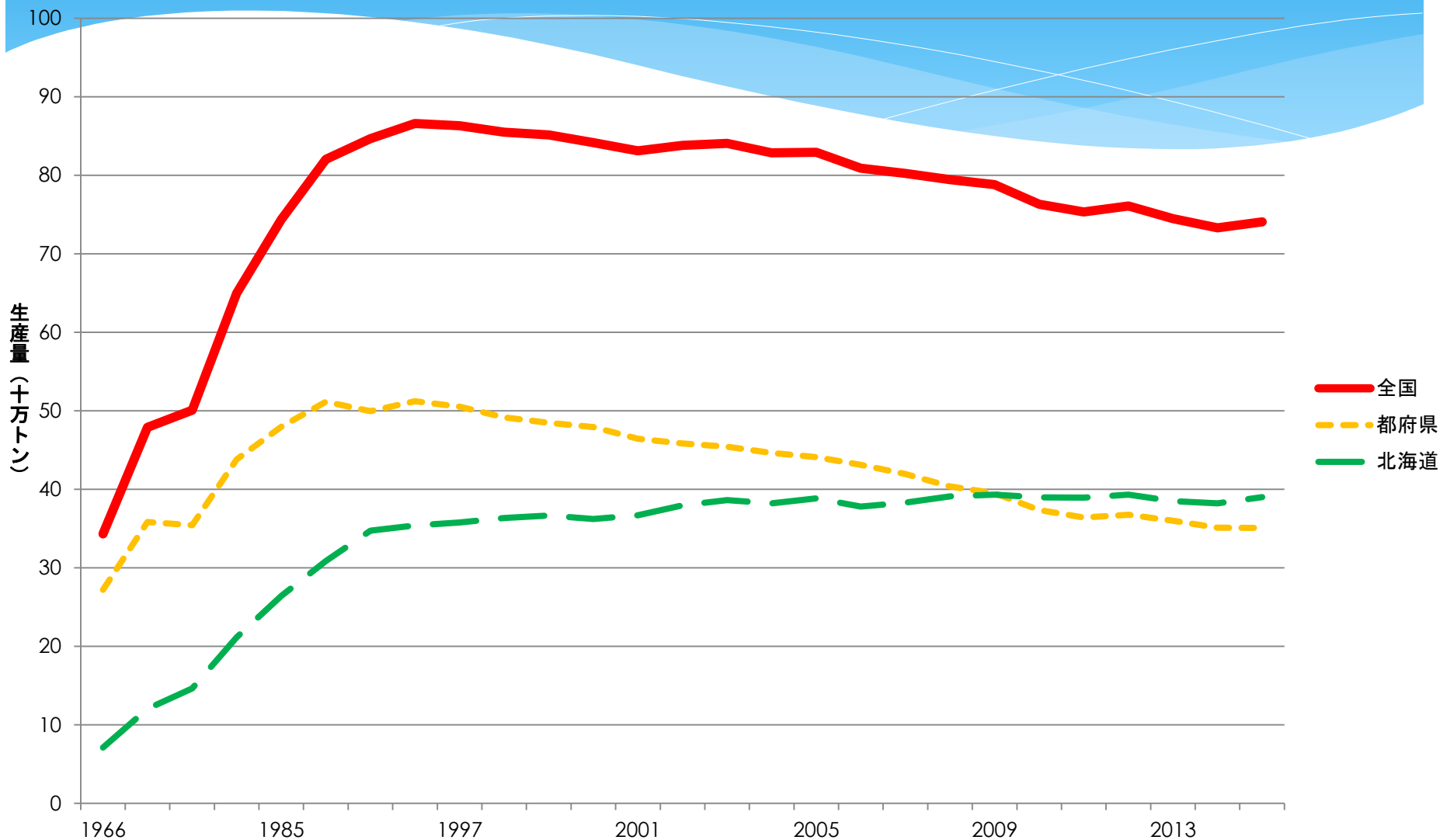
# 乳用牛飼養頭数の推移

頭数は減っても生産はそれほど減らない



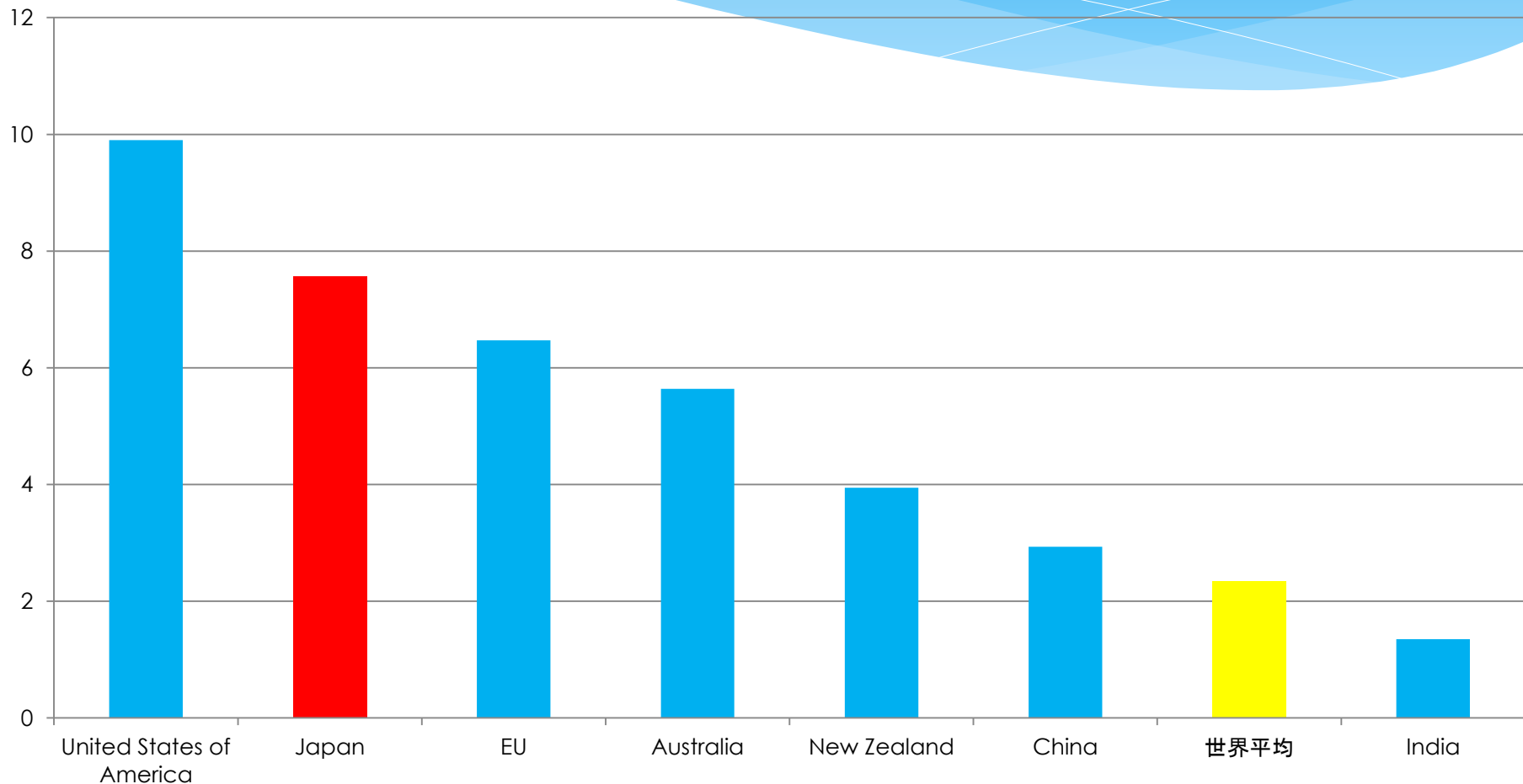
# 生乳生産量の推移

飲用需要の減少(なぜか?) = 都府県の縮小

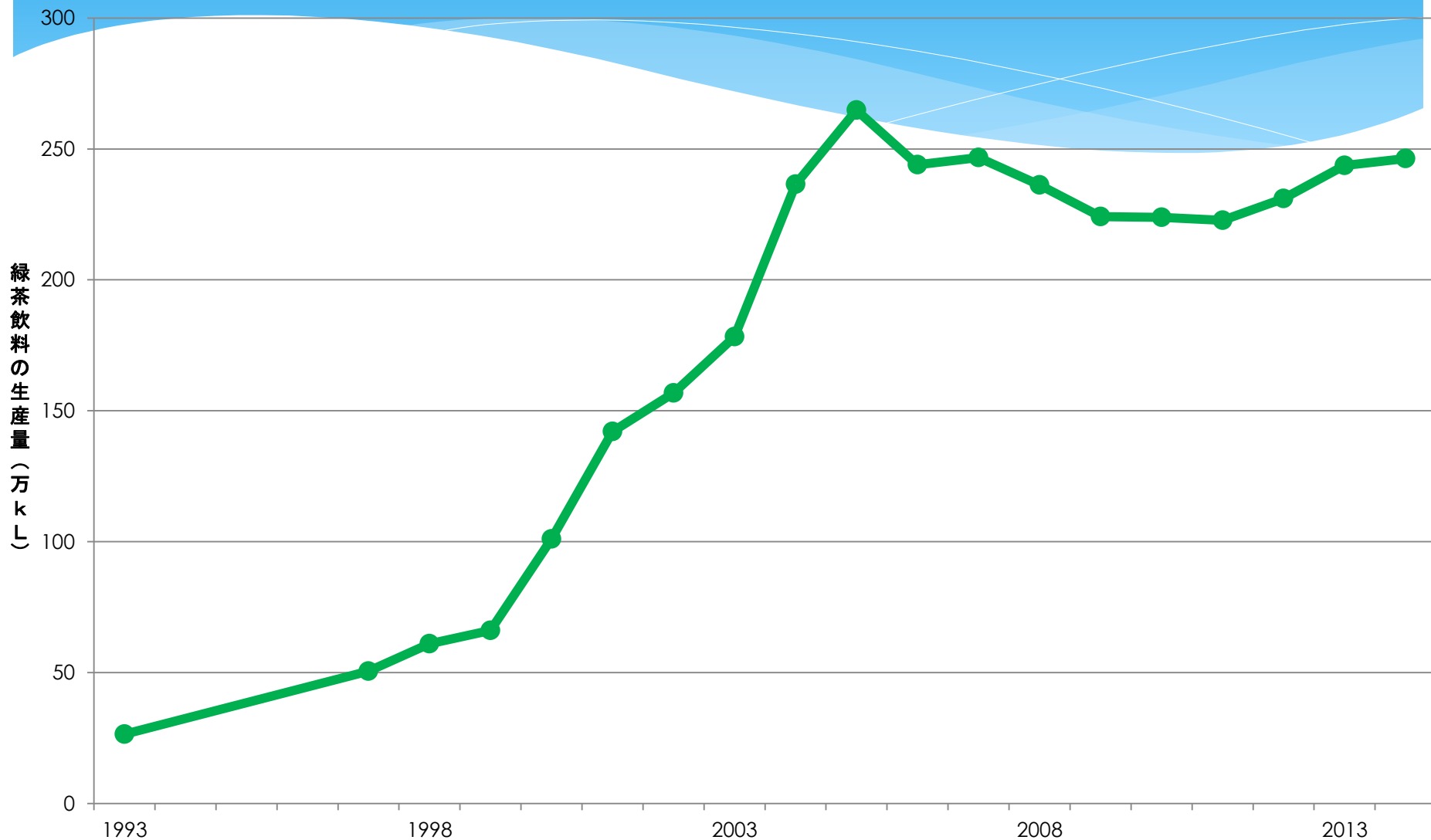


# 1頭あたり年間乳量の主要国比較

(トン/一頭・年)



# 緑茶飲料の生産の推移





# バター問題を考えるための基礎知識

- \* 様々な乳製品とバター・脱脂粉乳の特徴
- \* TPP交渉で、なぜチーズの関税を撤廃して、バター・脱脂粉乳の関税を維持したのか？
- \* 日本の農業保護の特徴
- \* 日本の農業保護は少ないというのは本当か？

生乳

牛乳

加工乳

乳飲料

乳成分で調整

乳成分以外で調整

乳製品・砂糖、香料など

アイス  
クリーム

乳酸菌などで  
発酵

ヨーグルト

殺菌

酵素を加える

凝固

カード

チーズ

液体

ホエイ

乾燥

ホエイ  
パウダー

乳糖

殺菌、遠心分離

クリーム

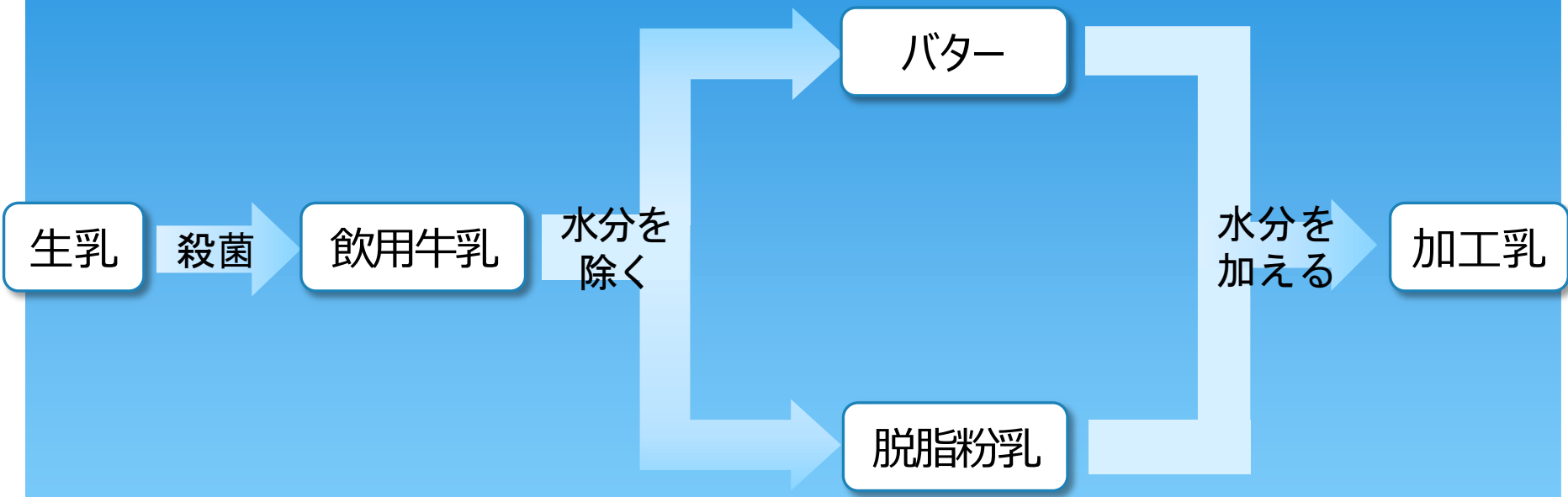
攪拌

バター

脱脂乳

乾燥

脱脂粉乳  
(スキムミルク)



# 農政の国際比較

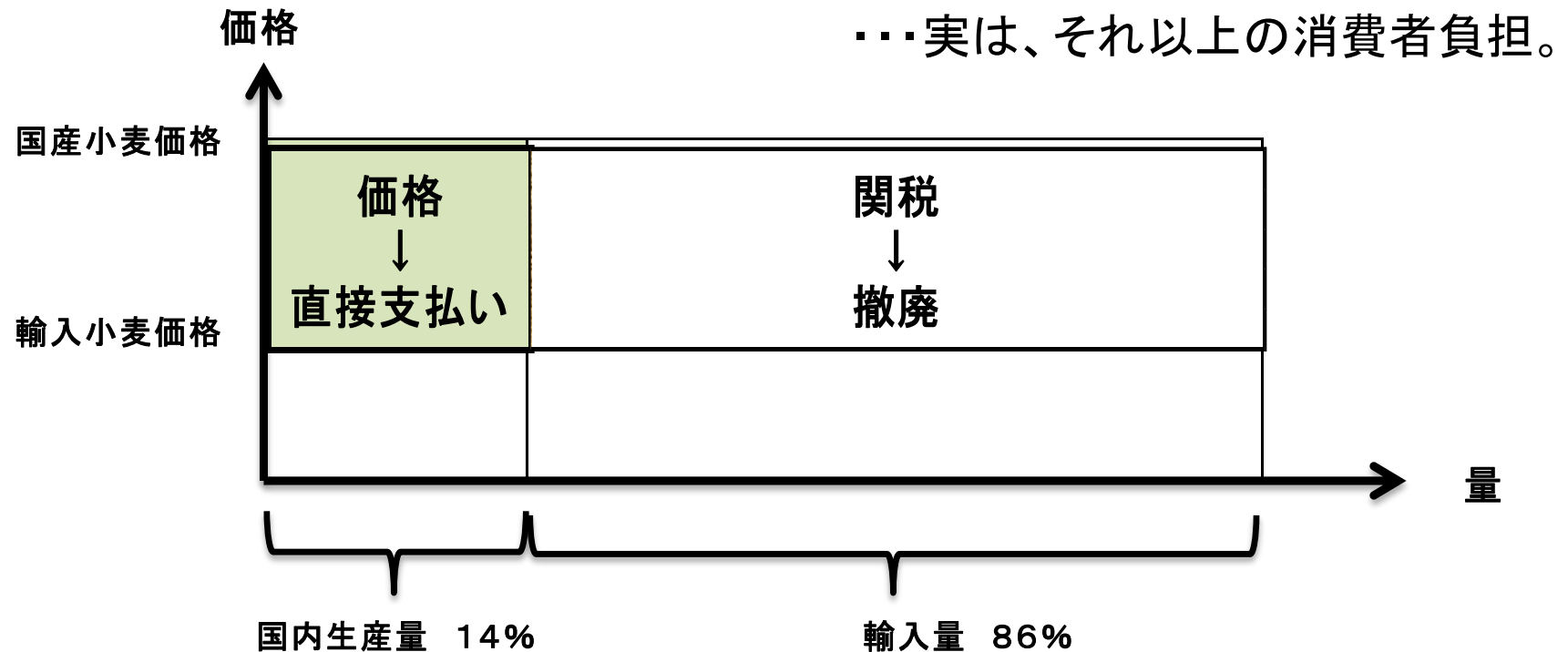
項目 \ 国	日本	アメリカ	EU
生産と関連しない直接支払い	×	○	○
環境直接支払い	△（限定した農地）	○	○
条件不利地域直接支払い	○	×	○
減反による価格維持+直接支払い（戸別所得補償政策）	●	×	×
1000%以上の関税	こんにゃくいも	なし	なし
500－1000%の関税	コメ、落花生、 でんぷん	なし	なし
200－500%の関税	小麦、大麦、バター、 脱脂粉乳、豚肉、 砂糖、雑豆、生糸	なし	バター、砂糖 （改革により 100%以下に引 下げ可能）

（注）○は採用、△は部分的に採用、×は不採用、●は日本のみ採用

# 関税は国益？逆進性の塊の農業政策

\* 関税を撤廃すると膨大な財政負担が生じるのか？

⇒ “膨大な財政負担” という主張は今 “膨大な消費者負担” をさせているというのと同義。



# コメ農政の構図

1兆円の国民負担

減反による供給減少

高い米価の実現

4,000億円の財政負担

6,000億円の消費者負担

3,000億円 減反補助金

1,000億円 減反を条件とする

米の直接支払交付金

## 米の高コスト構造

- ・ 高い米価で零細な兼業農家が滞留して専門農家の規模は拡大せず
- ・ 減反で面積当たりの収量は増加しない(カリフォルニアの収量よりも6割も低い)

## 食料安全保障への悪影響

### 米の消費減少

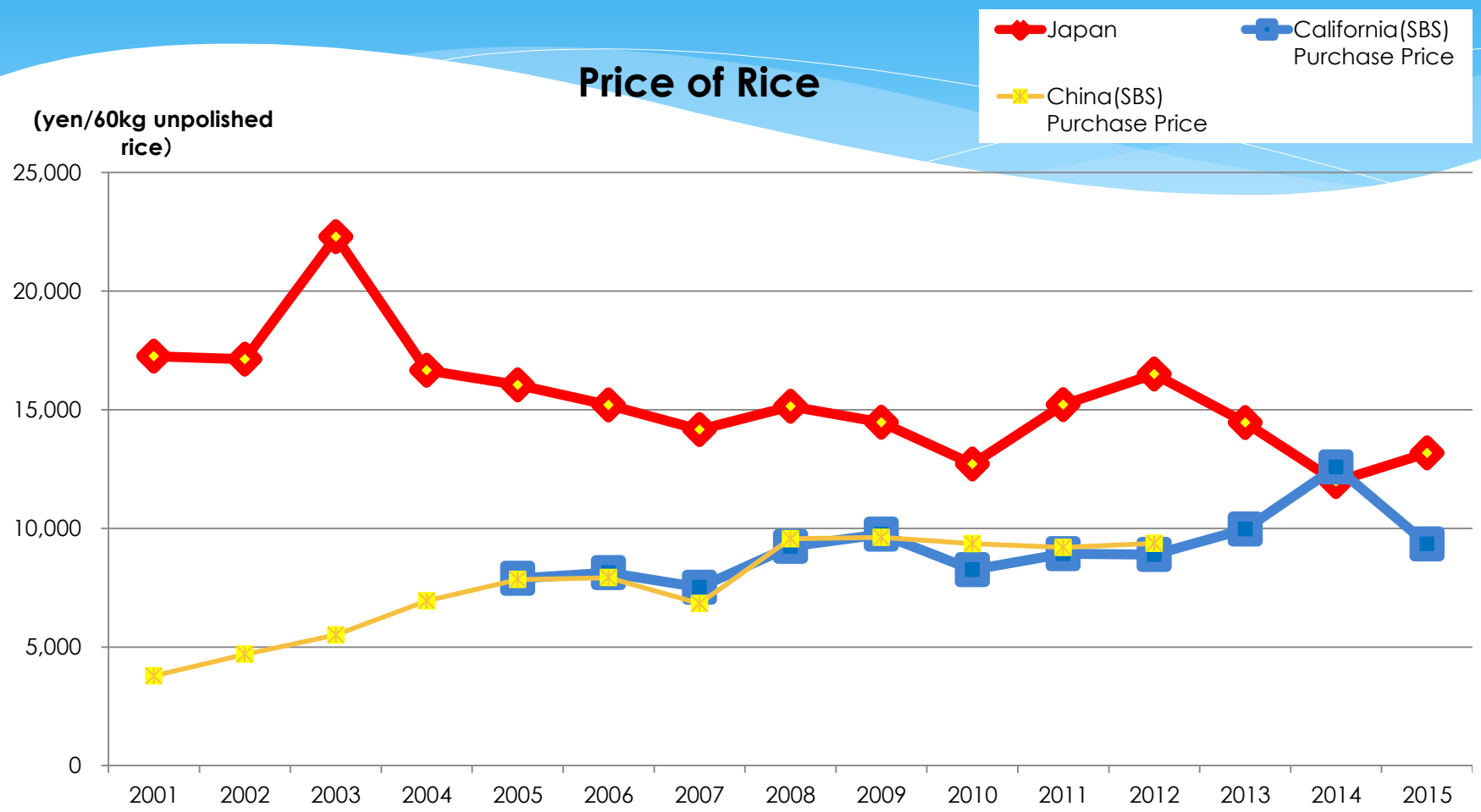
500万トンの米減産、700万トンの麦輸入  
(食料自給率の低下)

### 水田面積の減少

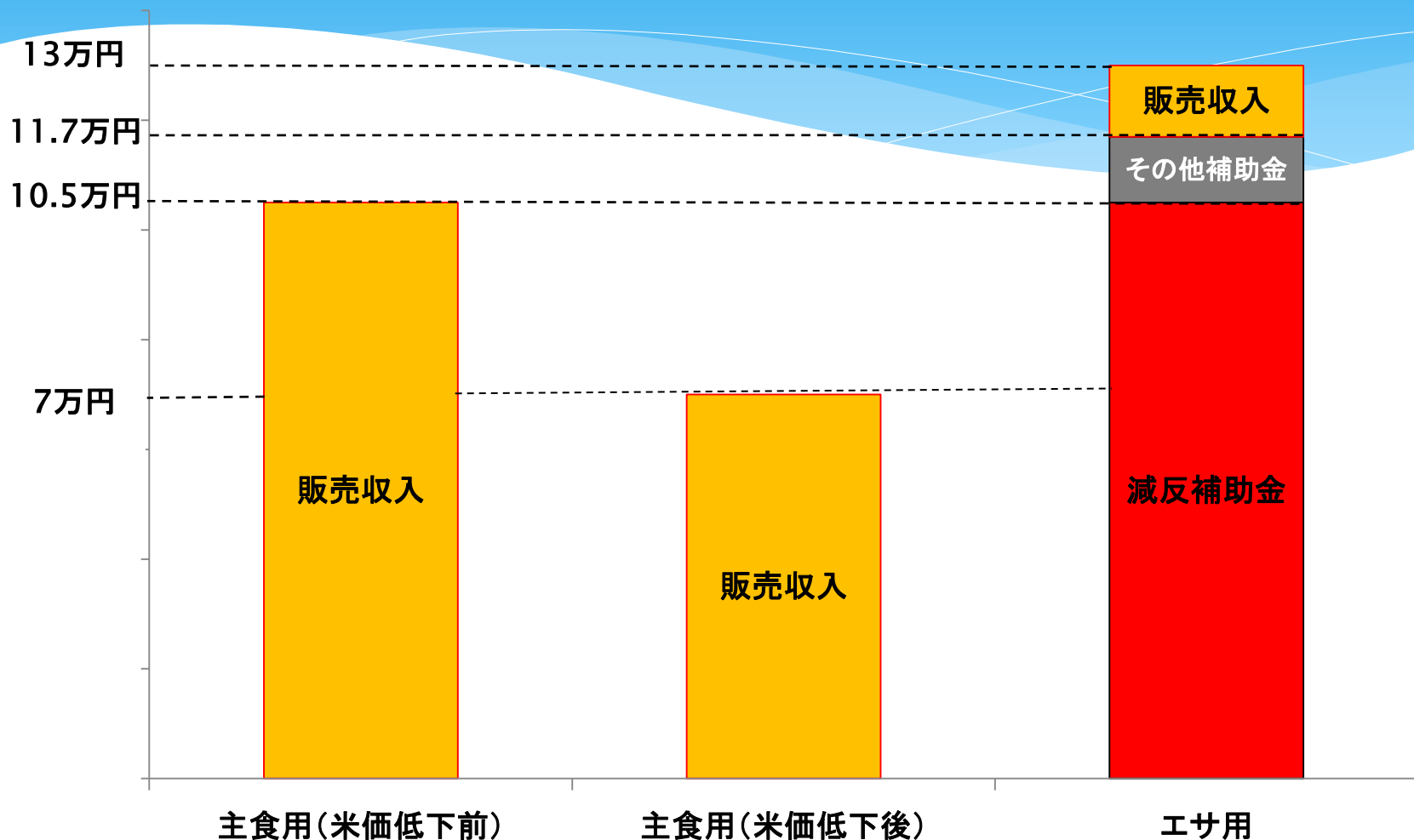
22 350万ヘクタール ➡ 250万ヘクタール

# 米の内外価格差は消えたが？

Price of Rice

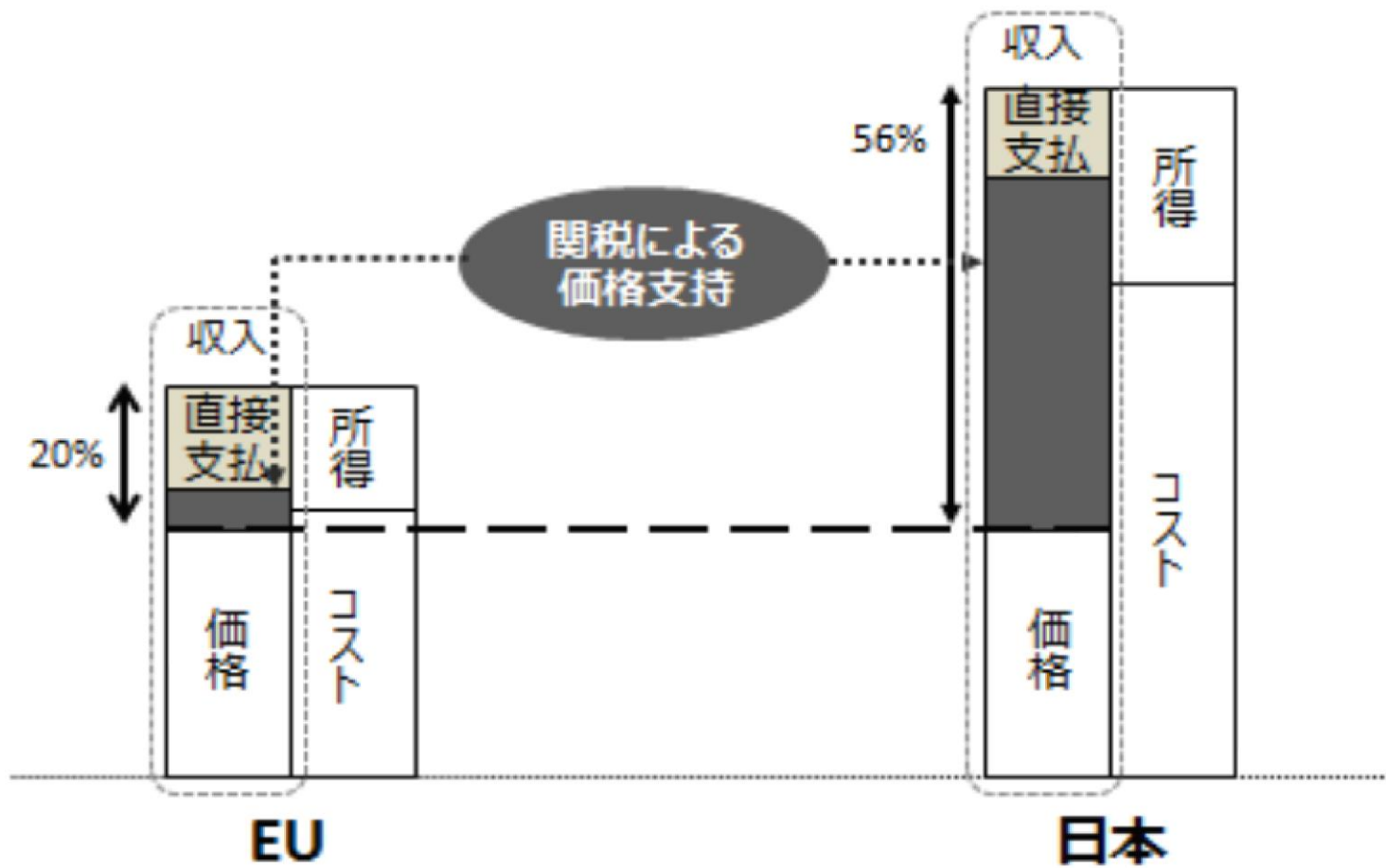


# 主食用とエサ用の収入比較





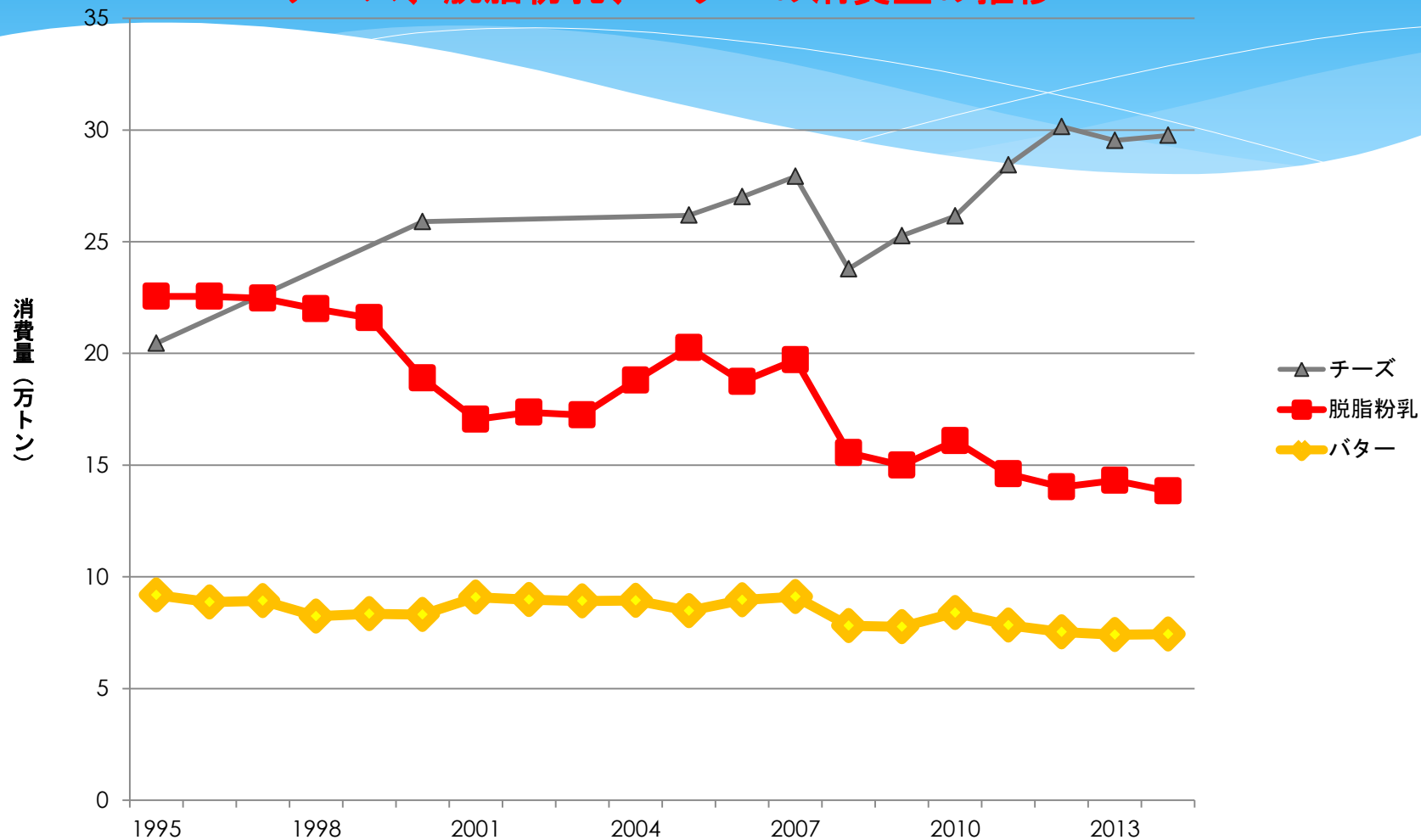
# 農業政策の日・EU比較



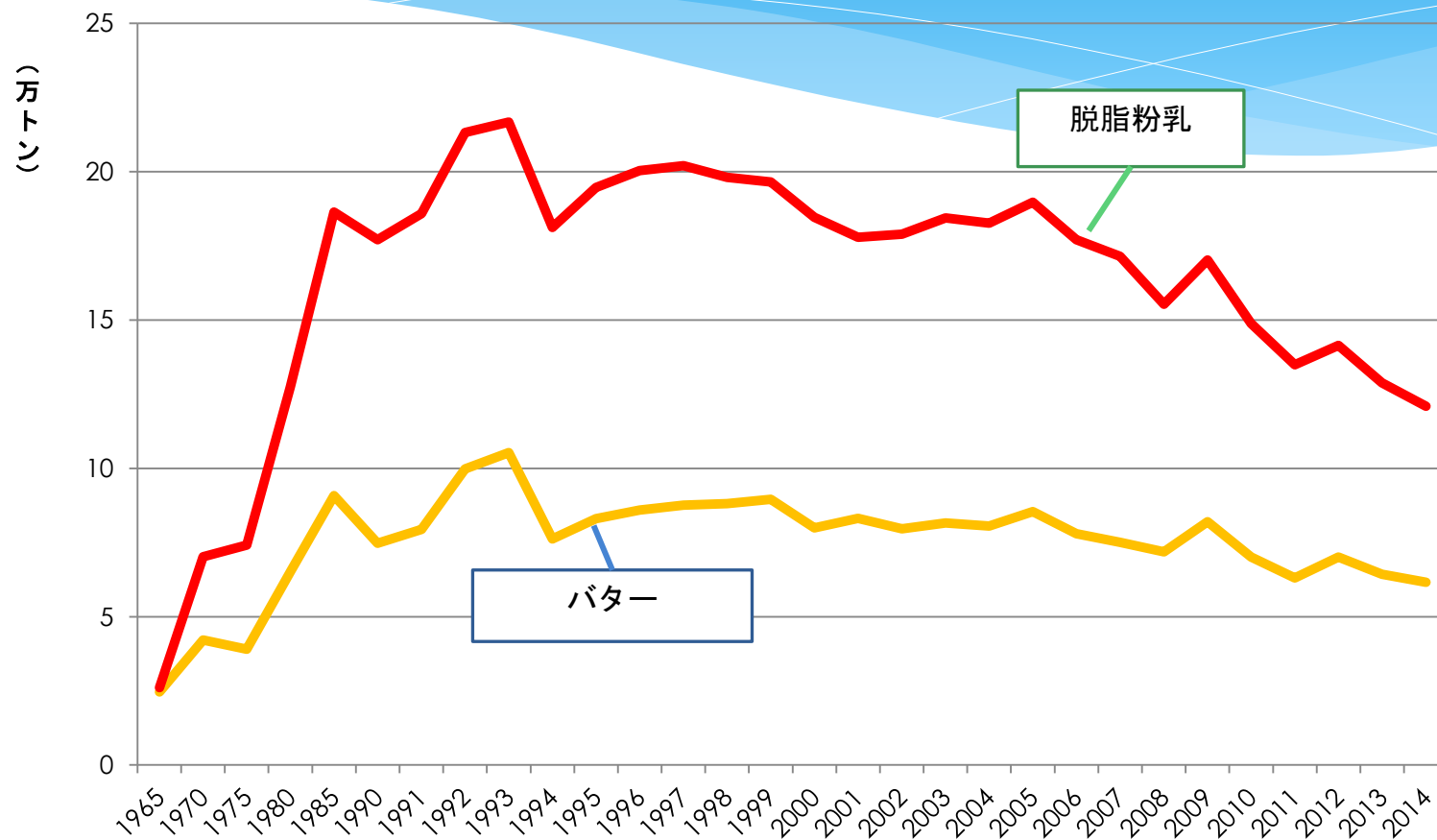
# バター不足の謎？

- \* バターや脱脂粉乳などの乳製品向けの生乳の供給量は、2010年△11.6%、2011年△9.2%＞2013年△8.1%。バターの生産量も、2010年△14.5%、2011年△10.1%の減少＞2013年△8.3%。それなのに、2010年、2011年に、なぜバター不足が起きなかったのだろうか？
- \* バターと同じように、脱脂粉乳の生産も減少しているのに、なぜ脱脂粉乳は不足しないのだろうか？
- \* 国際市場では過剰にあるバターが、なぜ国内市場では不足するのだろうか？

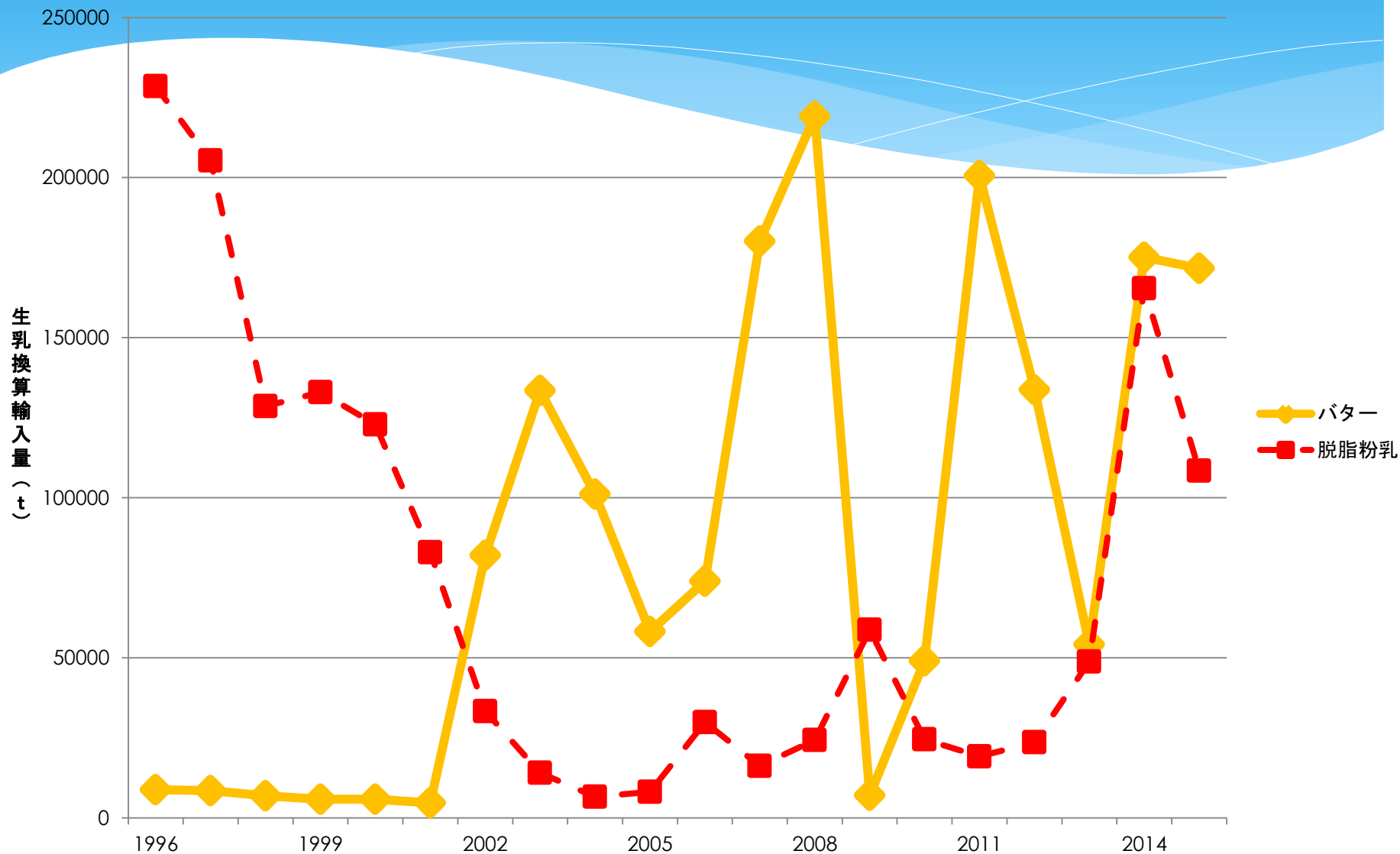
## チーズ、脱脂粉乳、バターの消費量の推移



## バターと脱脂粉乳の生産量の推移



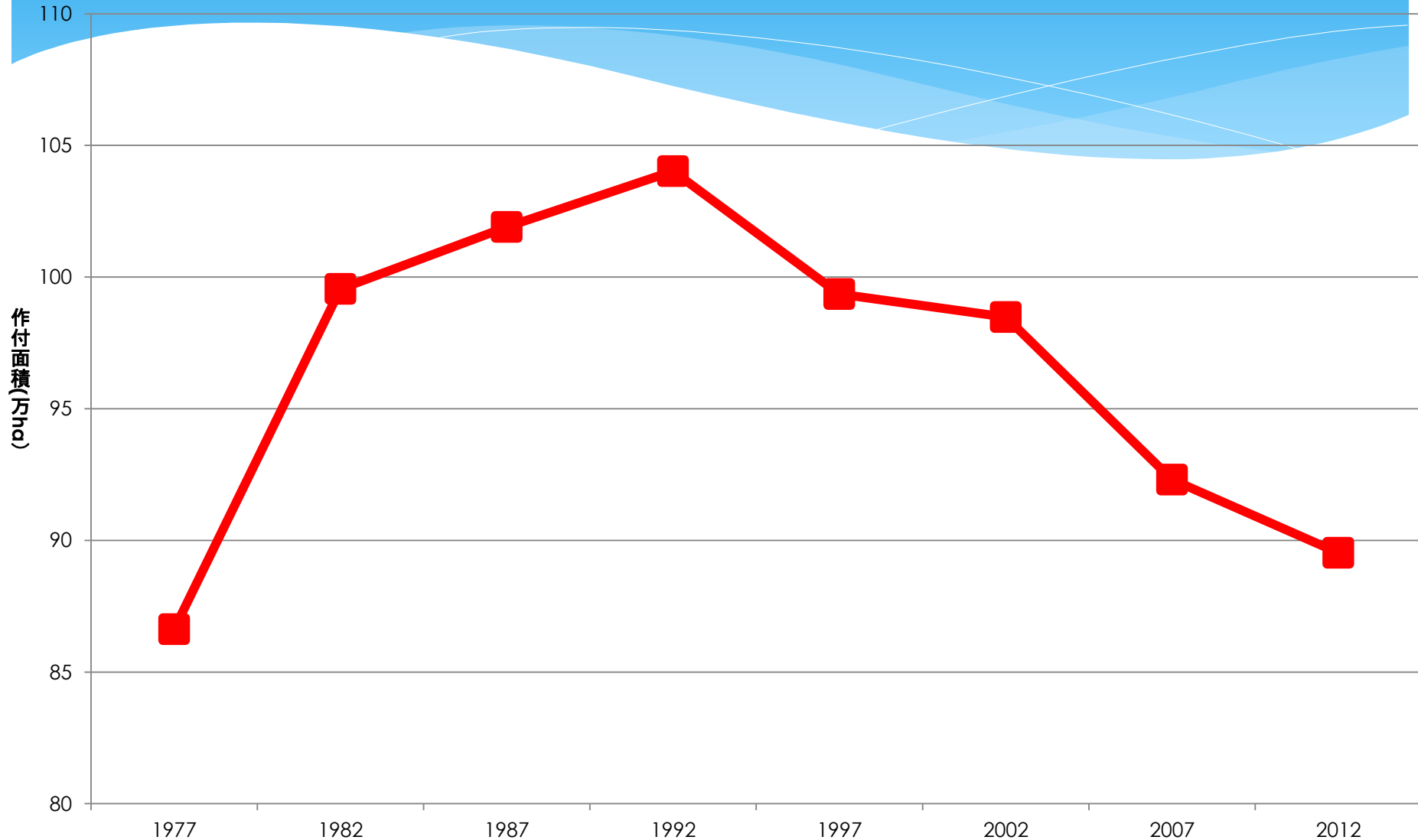
# ALIC乳製品輸入量の推移 (生乳換算)



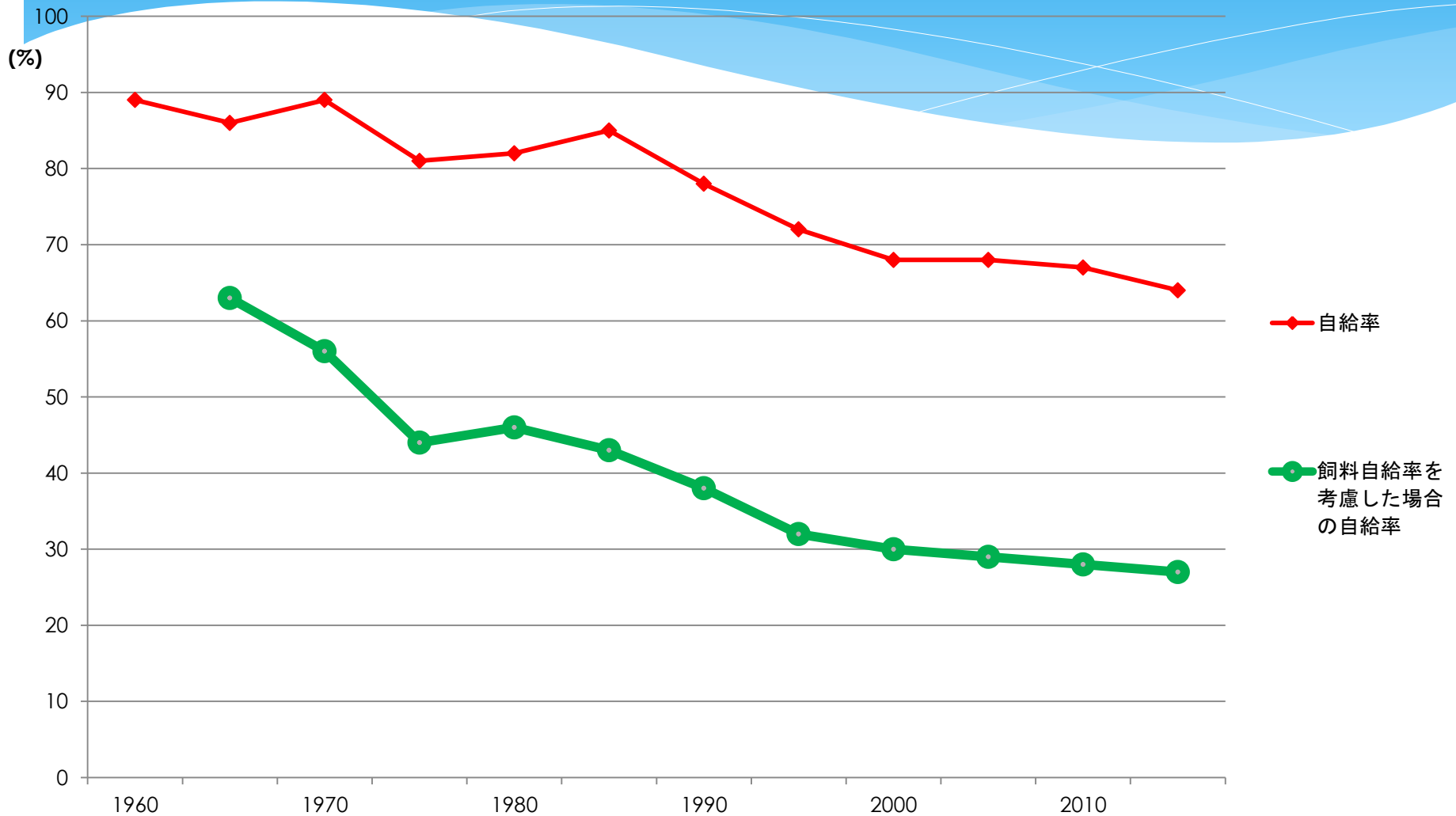
# 要するにバターはなぜ買えない？

- \* 牛乳は不思議な商品～牛乳－水＝バター＋脱脂粉乳、そしてバター＋脱脂粉乳＋水＝牛乳
- \* 牛乳からバターと脱脂粉乳が同時に生産、しかし、双方の商品の需要は違う→どちらかが足りなくて、どちらかが余る
- \* 2000年までバターが余り脱脂粉乳が不足。しかし、雪印低脂肪乳事件で需給関係が逆転→バター不足
- \* でも、なぜ国は必要量を輸入しないのか？

# 飼料作物の作付面積の推移



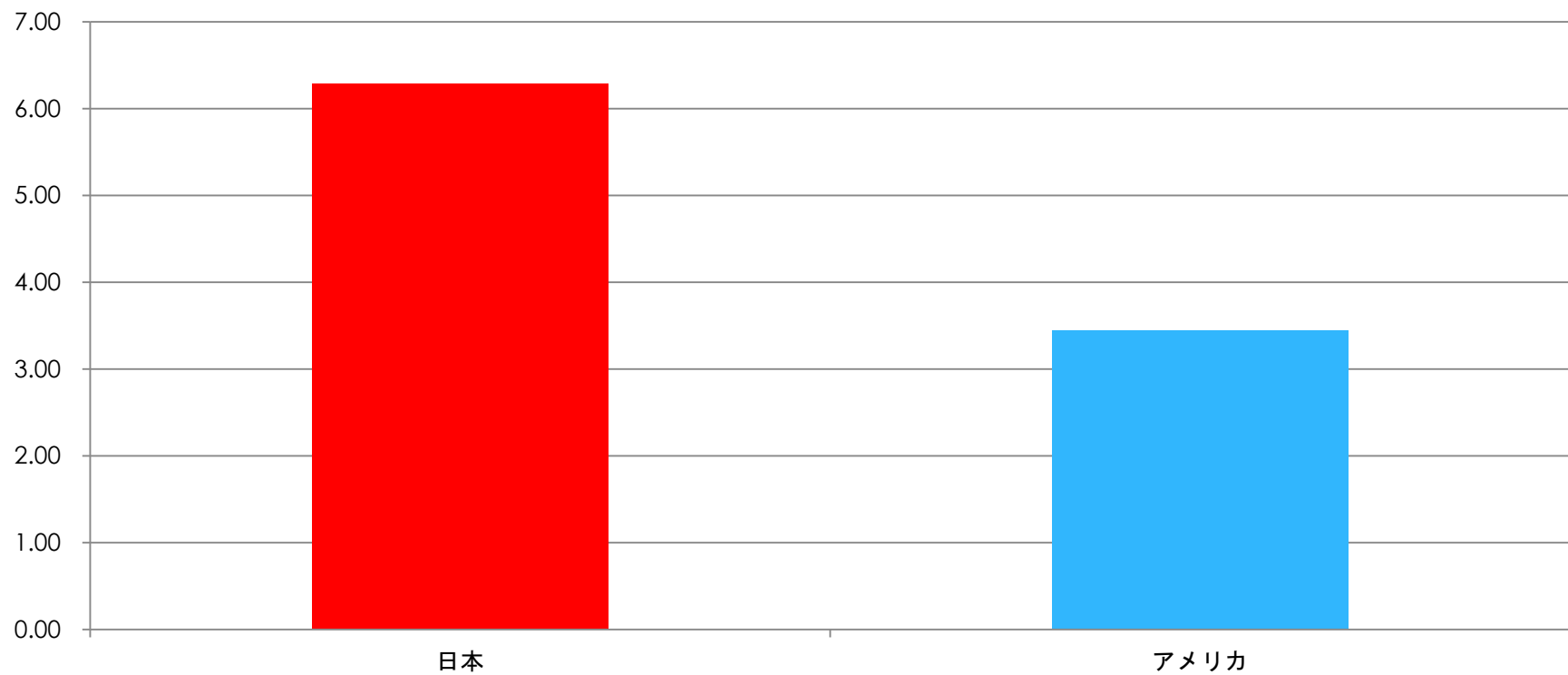
# 牛乳乳製品の自給率の推移



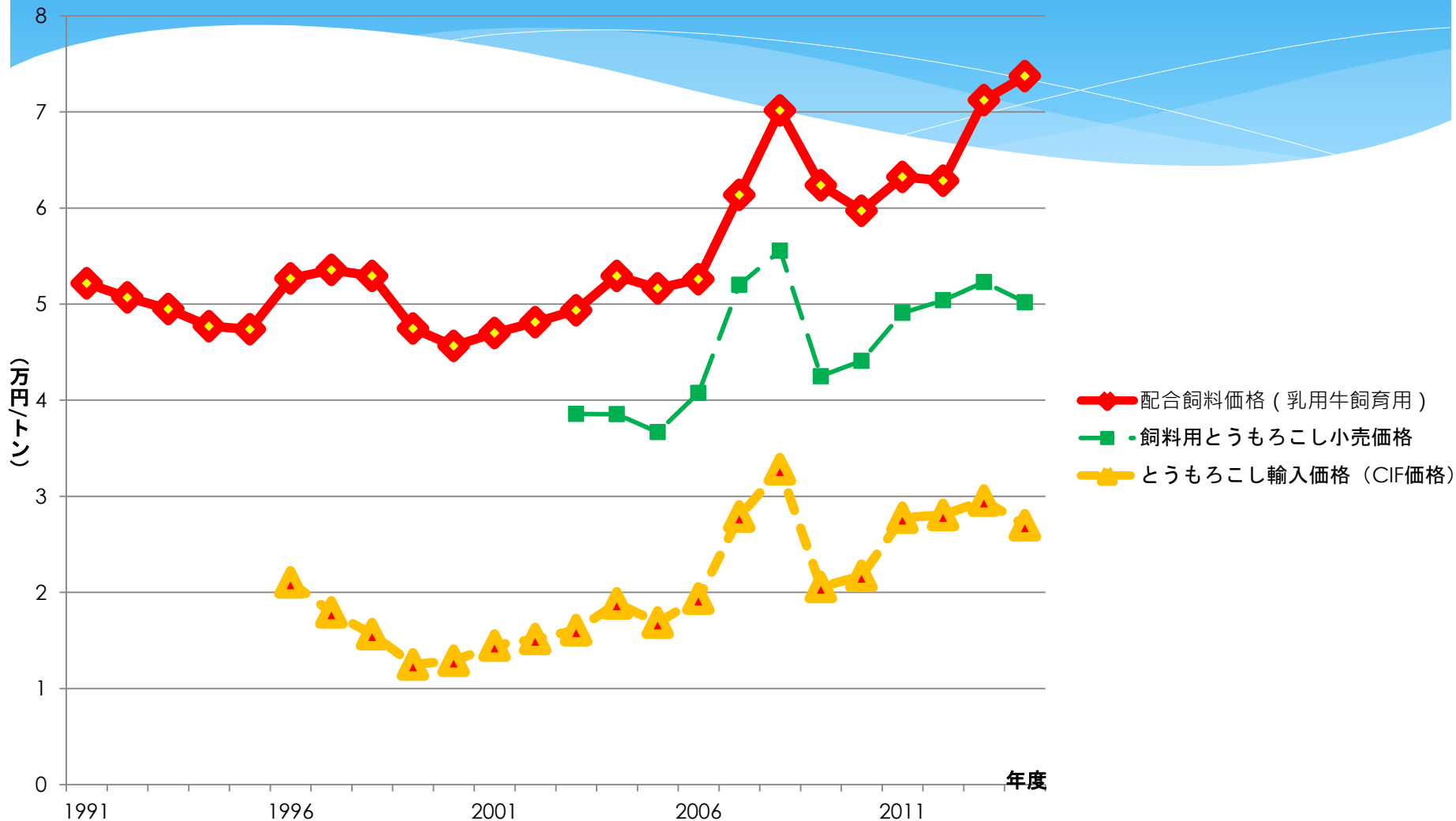


# 乳牛用飼料の価格

万円/トン



# とうもろこし、配合飼料の価格



# TPPと日本の農業問題

- \* 国会の農林水産委員会は、コメ、麦、牛肉・豚肉、乳製品、砂糖の農産物5項目を関税撤廃の例外とし、できない場合は脱退も辞さないと決議→交渉を拘束
- \* コメ、麦、乳製品、砂糖は関税維持＋コメと乳製品は輸入枠の拡大、麦は枠内課徴金の引き下げ、牛肉・豚肉は関税の引き下げ＋セーフガードで対応
- \* その代償として、アメリカの2.5%の自動車関税撤廃に25年を要す→全体のレベルを下げた

# TPPと牛乳乳製品

- \* バター、脱脂粉乳について関税維持、枠の拡大
- \* 成分的に脱脂粉乳と競合するホエイについて21年後に関税撤廃。セーフガードを発動しても関税水準は低く、脱脂粉乳への影響大。需要が減少する脱脂粉乳に合わせて生産すると、さらにバター不足が拡大。
- \* ハード系ナチュラルチーズは関税撤廃⇒プロセスチーズの価格低下⇒EUのカマンベール、モッツァレラは不利⇒いずれ日・EUのFTA交渉で関税撤廃
- \* バター、脱脂粉乳に加え、チーズ、生クリーム向けにも不足払い拡大。成分調整乳も生クリーム向け⇒事実上飲用向けにも不足払い拡大？

# 何をすべきか？

- \* 複雑な酪農政策～①用途別乳価＝一物多価はなぜ可能なのか？②一元集荷多元販売＝指定生乳生産者団体制度はなぜ必要だったのか？③用途別乳価と不足払い制度の隠された意義～飲用乳価の引き上げ
- \* 人口減少時代への対策はグローバル化
- \* 国内の貿易進展⇒牛乳の輸出は可能か？
- \* 輸出するための条件～日本農産物は品質が良いから高くても売れるは本当か？
- \* 酪農・畜産を保護する理由は？食料安全保障？多面的機能？無駄に使った2.5兆円！
- \* 究極の農業政策は？オーストラリアの酪農改革、EU直接払い改革